

～森の民話茶屋運営委員会～

森の民話茶屋通信

Vol.21

『ふるさとの民話とふるさとの森をつないで…』



調理場がなくなりました。



増築された外観。



店主スケッチの「森の民話茶屋」
クロスカントリースキーステーション

発行責任者／森の民話茶屋店主 後藤みづほ
福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林7林班 Tel.0243-48-4648

「森の民話茶屋」の創設十年を祝う



安達太良を知る会

安達太良の自然と景観を考える会

会長 三村 達道

安達太良山麓の一角、「県民の森」と大玉村の温泉宿泊施設「アットホームおおたま」に面し、近くには歴史伝説で名高い「遠藤ヶ瀧」がある自然景観に恵まれた場所に「森の民話茶屋」が創設・開業して十年。「継続は力」と言われますが、これまでの後藤みづほ店主はじめスタッフのみなさんの努力に敬意を表したいと思います。

「森の民話茶屋」は地域文化の継承・創造・発信の場と位置づけられるでしょう。「民話」は地域民衆の生活体験に根ざし創られ伝承されてきたもの。それゆえに「語り」は聞き手に笑いと感動を与えます。そこには現実には失われてしまったが、過去には存在したものの「郷愁」があるのではないでしょうか。人の心をなごませるものです。

「森の民話茶屋」で提供する食事すばらしい。食文化の存在を実感できます。地元の食材による手をかけた伝統の味。コンビニのフアーストフードとは違います。作り手のぬくもりがあるのです。

いままさにグローバル化の世界。「民話」を生み出す土壌である地域性、その土地のアイデンティティ（独自性）が喪失しがちです。人と人との関係も分断され孤立感が漂う時代。だからこそ人と人を結びつけ元気を与える「森の民話茶屋」の役割は大きいと思います。

調理場が明るく なりました。

念願だった調理場のスペースが村の配慮で増築され、明るく広くなりました。
お客さまに喜んで頂ける様、一層腕を振ります。



囲炉裏を置きました。

お席を増やすために二畳のコーナーを作りました。
“語り”の場にもなります。



チエリートマトのロサンデリア

〜安達太良山の達人熊じいちゃんこと

故 松井行雄さんの思い出

森の民話茶屋にふいっと現れて、山の恵みや季節の物（ミズナや山ぶどう）を置いてふいっと帰って行く。いつも優しい目で冗談を言って笑わせて。『森の民話茶屋』のメンバーの誰もがみんな松井行雄さんを『ゆぎあんちゃ』と愛称で呼ぶファンでした。

その日、間もなく手術の為入院だと言いながら、真っ赤なチエリートマトを房ごといっぱい持ってきてくれました。緑の茎についたままのそれを「房ごと店に飾っせ」と言いました。確かにしっかりとした茎は真っ赤なチエリートマトをまるでシャンデリアのように支えて、色彩もこの上なく美しい。この美しさを何とかお客さまに見せたい……と『ゆぎあんちゃ』は思ったのに違いないのです。それは二十房もあったでしょう。ルビーの様にきらきら光るトマトでした。水もお茶も「何もいんねえ」そう言って帰って行かれました。

その後、この貴重なシャンデリアを何処にどんな風に飾るか……いろいろ工夫をした結果、予想通りお客さまからその美しさに感嘆の声が上がりました。

やがてそのトマトが茎から一つ落ち、二つ落ちて私は何だか『ゆぎあんちゃ』の病気のことが気掛かりでした。以前にこの通信の店主が走る！村ウオッチのコーナーで松井行雄さんとアイ子さんご夫妻のインタビュ記事掲載しておりましたのでご家族の心配にも思いを馳せました。



松井行雄さんの絵「熊の親子」

〜「本当の空」のよう〜

その後、無事退院されて『森の民話茶屋』にも何度か顔を見せて下さいました。相変わらず冗談を言って、みんなを笑わせて。それなのに、今年四月五日早朝、この世を離れてしまわれました。四月八日の葬儀の日は、お釈迦様の誕生日でした。誰にも優しくあった『ゆぎあんちゃ』は、大勢の人々に見送られて旅立ちました。お別れの式で曾孫さんらしい小学生が、泣きじやくり又泣き続ける声が、会葬者の涙を誘いました。

家に戻り平成十三年十一月に発行した『森の民話茶屋通信 Vol. 8』のインタビュの欄を開きました。その欄の最後にアイ子さんが曾孫の圭哉ちゃん（三歳）に昼食を美味しそうに食べさせているのを笑顔で見ている行雄さんの様子が書かれています。

そうだったんだ。泣き続けていた小学生は、あの時三歳だった曾孫の圭哉ちゃんだったのだと思い当たりました。曾爺ちゃんとの別れがどんなに悲しかったのか、彼の思いに改めて胸が熱くなりました。そして『森の民話茶屋通信』の取材からもう八年経っていたのだと感慨深く、そして時間の流れを実感したのでした。

村や周辺の経験豊かな、そして素晴らしい仕事をしていらっしゃる方々を訪ね、取材させて頂いたり、茶屋の出来事を「通信」として発行してきて今回で二十一号になります。皆さん誰もが快くインタビュに応じて下さいました。又お手紙や写真を送って下さった方、又「隅々まで読んでいますよ。」と声を掛けて頂いて、励まされての二十一号になりました。これから、地道に発行し続けて行きますので、どうぞよろしくお願いします。

『ゆぎあんちゃ』も、今まで同様『茶屋』を見ていて下さい。曾孫の圭哉君、本当の空から見守っている曾爺ちゃん、分も曾婆ちゃんを大事にして下さいね。今度『森の民話茶屋』にみんなに来て下さい。



ふるさと
スペシャル

平成20年12月21日
福島テレビ放映
30分番組

ふるさとスペシャル2008

安達太良に響け
みんなの民話
大玉村

全国生涯学習
フェスティバル

平成20年10月11日～15日
大玉村出展ブースに協力
於ビッグパレット福島(郡山市)



語り部の小学生たち

大玉
うまいものまつり

20年度 スナップ集 ～1～

平成20年11月2日
於ふれあい広場



民話茶屋恒例の
小さなお客様デー



教育委員会の方々と



大玉保育所のおともだち



大玉村展示ブースの前で

詩人のひとり言



蛸原 由起夫

「お茶でも一服」
していいかなと思
って立ち寄った「森
の民話茶屋」は人っ

子ひとりもない。安達太良山麓の
一角に、ひっそりとたたずんでいた。
主のいない洒落た山小屋に、詩人は
一人つぶやく、『お茶でものんとい
ぐがどおもったげんじよ、日曜日に
来らせよと後藤さんにいわっちゃ
っけな。』ふるさとの料理でもてな
し、民話を語る。

心温まるぬくもりが、母のふと
ころに置き忘れた郷愁をそそる。
この「アイデア」が大玉村の活性
化につながり、大勢の人が訪れる
と言う。

秋アカネ飛ぶ山すそに、ツリフ
ネソウやアキノキリンソウがひ
っそりと咲いていた。ガガイモ
やヘクソカズラ、秋の七草オミ
ナエシは勿論のことヒヨドリソ
ウやシシウドまで見つけた。

ここは足元まで自然の宝庫で
ある。「森の民話茶屋」のみなさ
ん、いつか訪ねていくからね。

二〇〇八年九月

福島県現代詩人会名誉会員

本名 村野井 幸雄

(会津美里町在住)

国見町婦人会

〈2日目〉



〈3日目〉



3日に分けて110名来店〈1日目〉



20年度
スナップ集
~2~

会津語り部の会



大型バスで来店。

國學院大學
説話研究会

平成21年3月16日~18日
6名の学生が採話の為来村

好評
発売!

~森からの届け物~
「茅刈り狐」
CD付大人の絵本
1,400円



押山教育長から
村について
レクチャーを受ける。



森の民話茶屋にて





平成17年オープン時のスナップ

当時は、週1回日曜日のみの開店でしたが、テレビ各局、ラジオ等マスコミの取材が殺到しました。それだけ反響が大きかったのです。でも何しろお母さん達の店です。今思い出しても冷や汗が出る失敗も山ほどありました。ご飯が足りなくなってお客様をお待たせしたり、ご注文頂いた順序にお膳を運ばなかったり、と数え切れない程ですがその都度、お客様に教えて頂いて、何とか大過なく十年目を迎えることが出来ました。

あの日から今年で十年目を迎えました。これも一重にお客様のご愛顧と地域の皆さんの応援、それぞれに素晴らしい能力と真心を発揮してくれているメンバーみんなのお陰と心から感謝しています。合わせて折にふれて、適切な指導助言を下さった行政の方々にも改めて深く御礼申し上げます。

「森の民話茶屋」開店当日の店主の日記です。
「ふるさとの森と民話をつないで」との思いから店の名前を「森の民話茶屋」として、大玉村の良さをお客様に伝えたいと立ち上げた店でした。安達太良山の恵みの水、おいしい米、丹精こめた野菜、伝統料理、語り伝えられてきた伝説や民話、そして何よりも村に住んでいる人たち、総ては他に例を見ない宝物でした。

平成十二年七月十六日(日) 晴れ
昨夜から朝方まで降っていた雨が、開店時間を待っていたかの様にすっきり上がる。県と村の応援を頂いていたよいよオープンの日だ。手作り紅白テープをカット。大勢のお客様が広場に集まって下さり、メンバーの添田栄子さんが、朝早くから準備してくれた「つきたて紅白餅」をまく。紅白の餅は邪気を払い、拾った人に福を授ける日本の祝い事に欠かせない行事だ。この日一日の来店者百二十名。遠く新潟県からのご夫婦もいらっしやって、スタッフみんな喜び合う。(NHKT取材)

お陰様で十年目を迎えました。

そうそう、もう一つ、忘れてはならない大事なもう一つがありました。それは「森の民話茶屋」の高い天井に住んでいる「民話の神様」のお陰なのです(これは店主だけが思い込んでいるのだとメンバーは誰も信じてはくれないのですが...)。その神様は大小に係わらず困った時に天井を仰いでお願いをすると必ず助けてくれる「人」に出会わせてくれるのです。本当に「民話の神様」はいるのだと信じるしかないのです。私が信じている訳を今度ゆっくりお話ししますので、どうぞ又ご来店下さいね。お待ちしております。

さて来年はいよいよ十周年です。総てに感謝をして節目の挨拶と致します。

店主 後藤みづほ(敬白)

